

研究ノート

保育者志望高校生の幼児期における音楽経験 —保育者養成校の音楽カリキュラムを考える—

古根川 円*1

キーワード：音楽経験、保育者志望、幼児期、音楽表現

1 はじめに

近年、幼児教育を取り巻く環境は社会問題として大きくクローズアップされており、待機児童問題や保育士不足、そして幼児教育の無償化などといった言葉を、マスメディアを通じて度々聞くようになった。また、2018年問題という言葉があるが、それは2018年をピークに18歳人口、つまり労働人口が減少することである。その対策の一つとして、将来の少子高齢化を支えるため女性が輝ける社会の実現が期待されている。この他にも多くの社会問題を背景に幼児教育は経済的側面だけでなく、未来を託す人材育成としても大変重要な位置づけであると考えられている。平成29年3月31日に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の3法令が同時に改定されたことも、子どもに関わる全ての施設が大切な幼児教育施設として位置づけられ、幼児教育の内容や質をさらに見直し考えていく機会となっている。

そこで保育者養成校として成すべきことを考えていく上で、保育者を目指している現役高校生を対象に意識調査を行った。今回の調査では3法令改訂で示された幼児教育において育みたい資質・能力の三つの柱である「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の中から「思考力、判断力、表現力等の基礎」の特に表現力に着目した。今回、表現力を培う方法の一つとなる音楽表現活動の経験の有無を調査し、保育者を目指す高校生の実情と保育者養成校で音楽表現について何を身につけ

保育者として子どもたちの前に送り出すべきか指針を検証すべく調査を実施した。

2 調査方法

幼児期の音楽経験についてアンケート方式で調査を行った。

対象者

山口県内の県立高等学校で保育者を目指す高校生
35名
学年の割合
3年生17名 2年生18名

質問項目の選定

平松(2007)から質問項目を選定し、本学の音楽表現の授業で行っている活動も含めた

実施時期

2017年9月に2回実施
アンケート時間は授業終了後の5分～10分で実施

3 幼児期の音楽体験

3.1 幼稚園・保育所時代の音楽活動経験の有無

アンケート調査は対象者の記憶をたどる形で行った。結果を「ある」「ややある」「あまりない」「ない」

*1 至誠館大学 ライフデザイン学部

の4段階で示し、記憶に残っている強さで回答してもらった（表1）。

表1：幼稚園・保育所時代に行った音楽活動経験の有無（単位：人数）

図番号	質問	ある	ややある	あまりない	ない
1	いろいろな歌を歌った	31	3	1	0
2	リズムを含む遊びを行った	24	11	0	0
3	担当の保育者がピアノなどで歌の伴奏をしてくれた	34	1	0	0
4	指遊び手遊びをした	33	2	0	0
5	お遊戯やリトミックなど、身体表現を行った	27	7	1	0
6	わらべうたを歌いながら遊んだ	21	7	2	5
7	ミュージックベル、ハンドベルなどで演奏したことがある	15	3	13	4
8	行事のとき歌を歌ったことがある	31	2	2	0
9	行事のとき、楽器で合奏したことがある	29	2	3	1
10	劇などを発表したことがある	32	1	0	2
11	行事等で鼓笛隊で発表したことがある	13	5	4	13

以下、10の質問項目毎に図を貼り付ける。

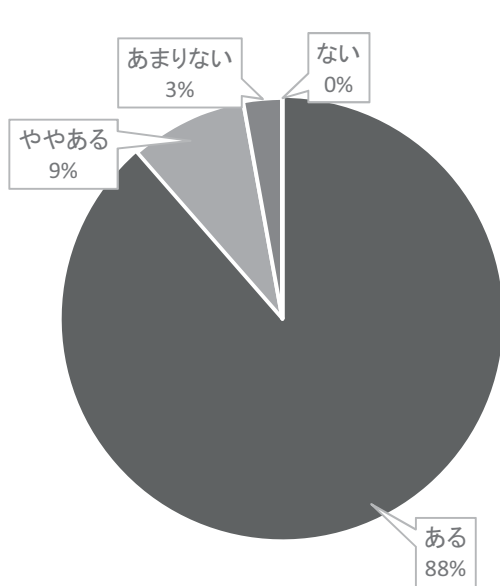


図1：いろいろな歌を歌った

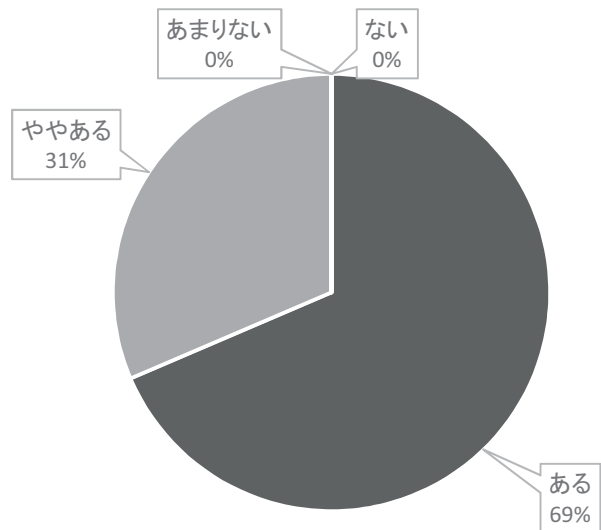


図2：リズムを含む遊びを行った

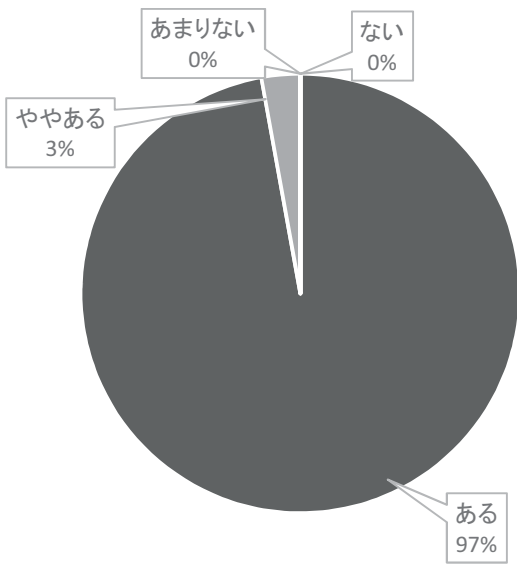


図3：担当の保育者がピアノなどで
歌の伴奏をしてくれた

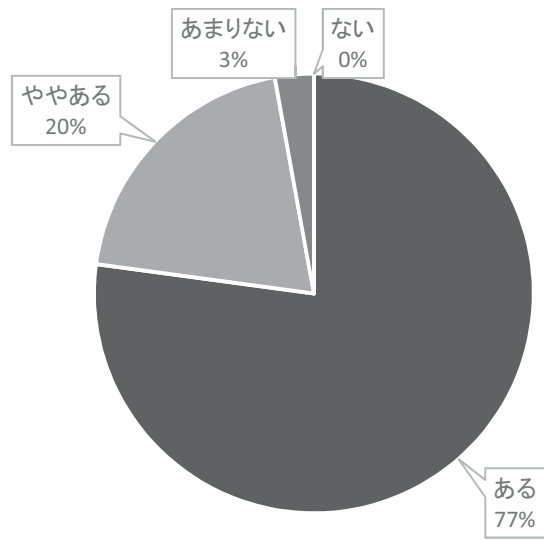


図5：お遊戯やリズムなど、
身体表現を行った

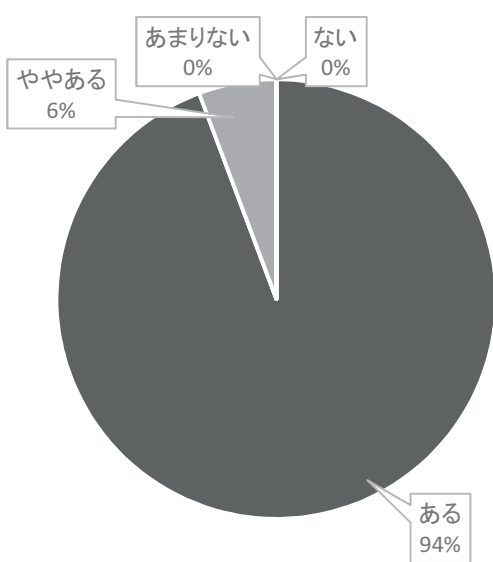


図4：指遊び手遊びをした

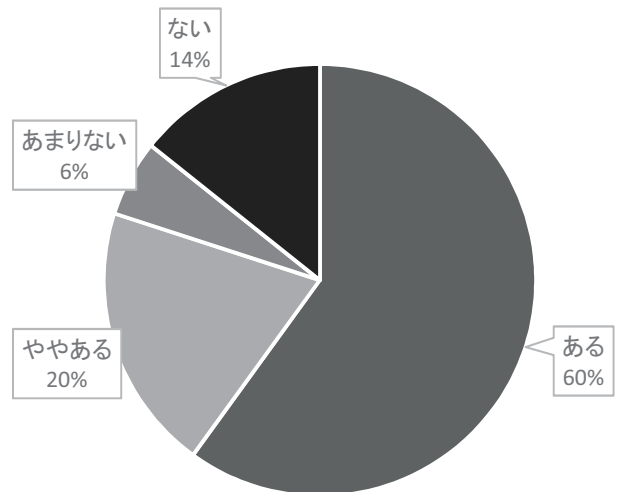


図6：わらべうたを歌いながら遊んだ

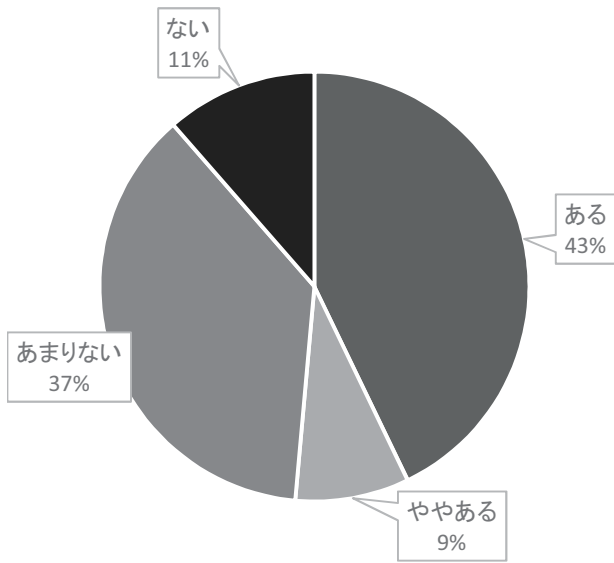


図7：ミュージックベル、ハンドベルなどで演奏したことがある

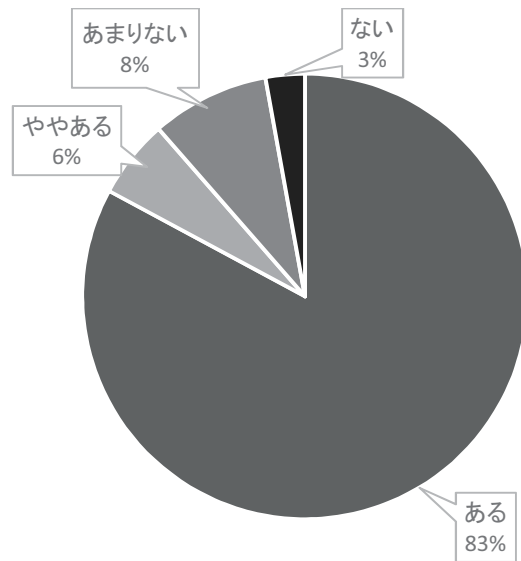


図9：行事のとき、楽器で合奏したことがある

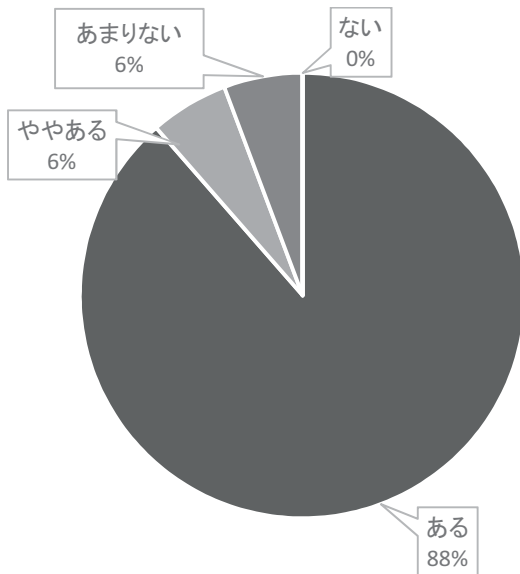


図8：行事のとき歌を歌ったことがある

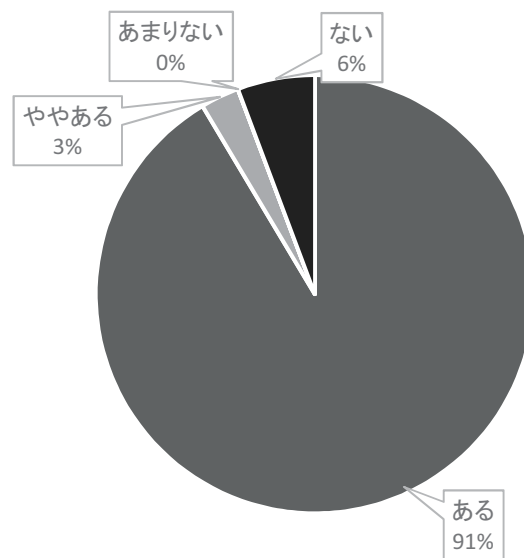


図10：劇などを発表したことがある

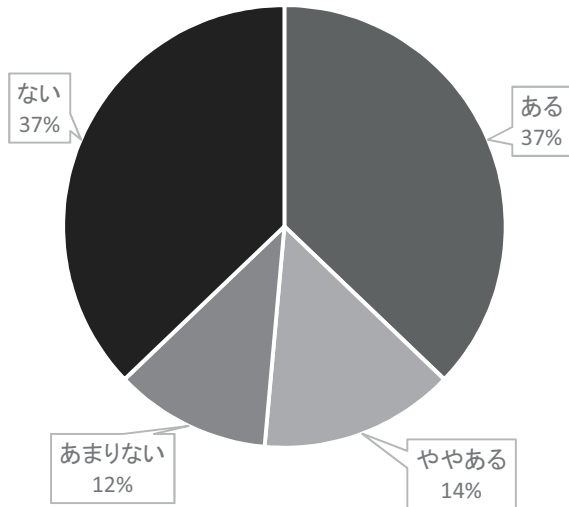


図 11：行事等の鼓笛隊で発表したことがある

調査に協力してくれた高校生が幼児期を過ごしたのは 2000 年代初頭であるが、歌を歌う、手遊び、合奏、劇遊びなど全て 80%以上が体験しており、園生活に音楽活動が密接に関わっていたことがうかがわれる。歌、合奏に比べリズム遊び、リトミックを含む身体表現活動は 69~77%台で少し下がる傾向がある。幼児期の音楽との出会いはリズムからといわれているが、リズムを遊びに取り入れることやリトミックなどの身体表現活動に展開していくには、提供する保育者側に音楽的技術が必要であると敬遠される傾向があるように考えられる。幼児期にこのような体験があるか否かは、保育者養成校で学ぶときにもリトミックや身体表現活動に抵抗がある、なしに大きく影響していると感じる。

わらべうたに関しては歌を歌う活動は多く体験しているが、意外とわらべうたで遊んだ経験がないことが分かった。わらべうたは限られた音と狭い音域で歌えるため未成熟な幼児の声帯でも易しく歌える点や、伴奏楽器を必要とせずアカペラで気軽に歌える点、遊びと一体化したものが多点多点など近年見直されているが、現状としては今後ますますの普及が求められる分野だと感じる。図 7 や図 11 は幼稚園・保育所で楽器の

設備の有無に関わる為、体験者数が少ないのは致しかたないことであった。

3.2 子どもの頃に歌った曲

表 2 は子どもの頃に歌った曲で覚えているものを自由記述で書き出してもらった。回答は複数可とした。曲名はアンケートに記述されたとおりを記載した。

表 2：子どもの頃に歌った曲

曲名	回答数
チューリップ	6
ちょうちょ	6
きらきら星	5
どんぐりころころ	4
ぶんぶんぶん	4
うみ	3
アイアイ	2
アイスクリーム	2
かえるの歌	2
こぎつね	2
さよなら僕たちの幼稚園	2
さんぽ	2
覚えていない	2
犬のおまわりさん	2
大きな栗	2
アニソン	1
アルゴリズム体操	1
あわてんぼうのサンタクロー	1
アンパンマン	1
うるう年のマーチ	1
お母さん	1
かたつむり	1

35 名で 103 個の記述があった。子どもの頃に歌った曲としてすぐに思い出せるものは、上位に挙げられたチューリップ、ちょうちょ、きらきら星、どんぐり

ころころ、ぶんぶんぶん、うみなど比較的易しく年少（3歳）クラスで歌われるものが多くみられた。それらの曲は季節の曲として多くの幼稚園・保育所で取り上げられることが多いものである。その他の特徴として、子どもの頃歌った曲の記憶は各々違っていて重複する回答が少ない傾向があった。表2のかたつむり以降は1票の回答が続くが、アニメソングではプリキュア、歌謡曲ではマツケンサンバなど2000年代初頭に流行した曲が入っていた。幼稚園・保育所で歌ったかは明らかではないが、子どもはテレビなどから流れてくる音楽に敏感であり、現在も記憶に残っているものと考えられる。

3.3 幼稚園・保育所時代の音楽的表現活動

幼稚園・保育所時代の音楽的表現活動について表3に示す。

設問は平松（2007）を参照し、本学での授業実践を踏まえ新たに3番目の「音楽をイメージした身体活動をおこなったことがありますか」と5番目の「音楽を絵や造形で表す活動をおこなったことがありますか」を加えた。3番目はリトミックを含めた音楽による身体表現活動であり、5番目は音楽による造形表現活動である。音楽や造形表現は幼稚園教育要領「領域表現」

の大切な活動であり、幼児の創造性を引き出すため取り入れたい活動のひとつであるため設問に加えた。

項目別では、1番目の「音楽のついた話や劇にわくわくしましたか」について89%はわくわくした経験をもつが、なしと回答した生徒は音楽のついたお話や劇を鑑賞する機会がなかったのかもしれない。図10では91%が劇発表の体験をしたと回答していることから、体験したがわくわくはしなかったことがうかがえる。2番目の「音楽に合わせて体を動かすのは好きでしたか」の項目は91%が好きと感じていた。3番目の「音楽をイメージした身体活動をおこなったことがありますか」では全くなしと回答したものは0人であったが、図5の「お遊戯やリトミックなど身体表現をおこなった」では97%もの生徒があると回答しているが、この設問では80%と下がったのは先生の動きを真似するお遊戯などの経験はあるが、自らイメージして動くような創造的な活動体験はやや少ないのではないかと考えられる。4番目の「友達などと音楽づくりをするとき、充実感がありましたか」では77%と少し低めであった。幼児期における音楽づくりに対する認識が低いことが一因ではないかと考えられる。5番目の「音楽を絵や造形で表す活動をおこなったことがありますか」

表3：幼稚園・保育所時代の音楽的表現活動（単位：人数）

	質問	ある	ややある	あまりない	なし
1	音楽のついた話や劇にわくわくしましたか	22	9	3	1
2	音楽に合わせて体を動かすのは好きでしたか	27	5	3	0
3	音楽をイメージした身体活動をおこなったことがありますか	16	12	7	0
4	友達などと音楽づくりをするとき、充実感がありましたか	17	10	8	0
5	音楽を絵や造形で表す活動をおこなったことがありますか	12	12	8	3
6	「わらべうた」や「絵描き歌」で遊んだことはありますか	21	12	2	0
7	テレビCMの音楽やセリフをまねたことがありますか	22	10	3	0
8	周囲の音に耳を傾けて音をイメージしたことがありますか	17	11	4	3

では「ある」の回答が全設問中一番低く68%であった。このような活動は造形の専門家がいなければ難しいと捉えがちだが、想像力豊かな幼児期だからこそ形のない音楽や音をイメージし創造していく過程が重要であると考え。正しいか間違っているかではなく過程を経験することで空間認識や音の3要素（大小、高低、速遅）などを感じる芽を育むことができると考える。6番目の「わらべうた」や「絵描き歌」で遊んだことがありますか」では94%の生徒が「ある」と回答した。図6のわらべうたを歌いながら遊んだことがあるかの設問では「ある」は80%と回答が異なっている。つまり、歌いながら身体を動かす遊びと、絵描き歌との差がこの結果になったと考えられる。「わらべうた」だと少し馴染みが薄い感じであるが、絵描き歌だと馴染み深いことがうかがえる。7番目の「テレビCMの音楽やセリフをまねしたことがありますか」では、91%が「ある」と回答し最も高かった。これはテレビが普及して以来、視覚、聴覚から入ってくる新しい情報に子どもは敏感であり、興味をもったものはすぐ覚え真似してみる幼児期の特徴といえる。8番目の「周囲の音に耳を傾けて音をイメージしたことがありますか」では5番目の造形表現と同様に「ない」と回答した割合が最も高かった。このような目で見えないものに対してイメージし創造する活動は、情報や音が散乱する現代社会では意識して行わないと経験する機会さえもないのかもしれない。しかし、身近な音に耳をすませ「音」に対する興味、関心を持つことが豊かな感性を育み、小学校音楽科で扱われる「音楽づくり」に繋がっていくと考えている。平成23年4月1日から全面実施されている小学校学習指導要領音楽編で「音楽づくり」については、「生活の中にある音に耳を傾けたり様々な音を探したり音をつくったりして音の面白さに気付くとともに、音を音楽へと構成する音楽の要素や音楽の仕組みの面白さに触れるようにする¹⁾。」と示されている。小学校からの学びには前段階である幼児期の心と体の育みが不可欠である。保育者養成校において音楽によ

り子どもたちの何を育て、引き出していきたいのかを理解し、そのための知識や技術を修得できるよう努める必要性を感じる。

3.4 幼児期から現在までの楽器経験

図12に幼児期から現在までの楽器経験の有無を示す。

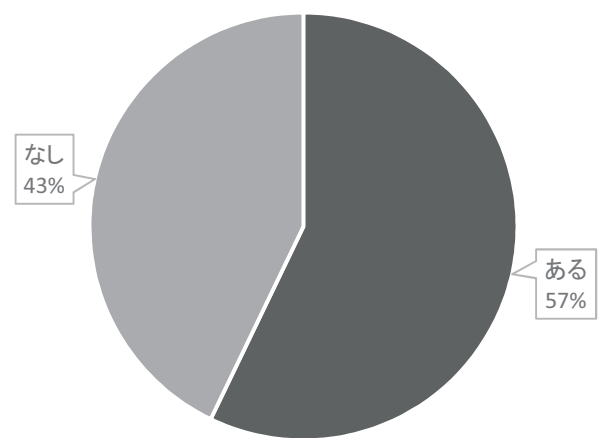


図12：幼児期から現在までの楽器経験

「ある」と回答した者は全員ピアノを学習していた。今回の調査対象が保育者を目指している高校生であるため、将来必要になることを考え高校生から習い始めた生徒もいた。しかし、保育者を志望していても子どもの歌を演奏する機会を想定し、前準備として楽器を習うという経験は少ないように感じる。表4は個人での楽器経験と学校のクラブ活動での楽器経験を示したものである。今回の調査校の1校は総合学科の生徒であったため、授業内で保育者を目指す準備時間が持てるものの約半数近くは「なし」と回答している。

表4：現在までの音楽経験の有無（単位：人数と割合（%））

楽器経験	ある	ある	なし	なし
クラブや部活で楽器経験	ある	なし	ある	なし
人数	8	12	2	13
割合（%）	23%	34%	6%	37%

表5：入学前の高校時代の音楽経験について

高校時代に学校で「音楽」を学びましたか？	はい	57.4%
	いいえ	42.6%
「いいえ」と答えた人は、なぜですか？	選択しなかった	75.0%
	選択したかったができなかった	5.8%
	音楽教科がなかった	17.3%
入学前の心構えとして、鍵盤楽器のレッスンに通いましたか？	はい	36.9%
	いいえ	60.7%

表5は平松（2007）が2006年に幼児保育学科1年生を対象に調査したものである。（表は筆者作成）

この表では高校時代に「音楽」を学ばなかったと回答した者のうち「選択しなかった」の75%に注目したい。高等学校のカリキュラム編成上、保育者養成校に進路を決める時期により、授業選択が難しい面があるように考えられる。また、入学前の心構えとして鍵盤楽器のレッスンに通った割合も少なく幼児教育の道を志す人の「音楽」への関心が低いことを感じる。そういった前段階も含め資格を取得し保育者として子どもたちの前に立つまでに、なぜ音楽が必要なのか、保育者としてどのような音楽を提供できるのかを理論・技術と共に指導する必要性を感じる。

4 おわりに

今回、保育者を目指す高校生に音楽経験の調査を行ってみて非常に多くの生徒が幼児期の音楽体験を記憶しており、そして幼児期の音楽体験を楽しかった経験として受け止めていた。それはひとえに現役保育者の方々が日々の保育の中で楽しく学び・感じる環境を与えてくださったことにほかならない。そのような楽し

い記憶があるから、保育職に魅力を感じる生徒が生まれるのだと感じた。保育者になることを夢見て進学した保育者養成校では、理論・技術のみの修練に終わるのではなく、幼児教育になぜ歌や身体表現活動、劇ごっこなどが存在するのか、楽しい遊びの中に学びがあるとはどういうことなのか等、幼児教育の大切さを実感し理解しようとする姿勢をもたせることが肝要だと考える。つまり、楽器がなくてもリズム遊びや演奏が可能であることを認識し、その認識を活かすことができる自由な発想力・創造力を磨くことが大切であると考えている。教育において絶対は存在しないが、常に多様性と柔軟性を意識したカリキュラム構成が今後の課題である。

[引用文献]

- 1) 小学校学習指導要領解説音楽編；文部科学省，2008，7

[参考文献]

- ・文部科学省, 厚生労働省, 内閣府;平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本, チャイルド社, 2017
- ・平松昌子;学生の音楽観と幼児音楽に向かう姿勢—幼児保育学科の学生を対象とした調査を基に「ハイブリッドな」音楽教育を考える—, 北海道文教大学研究紀要, 31 : 67-74, 2007

資料1

幼稚園・保育所での音楽活動経験に関するアンケート

*本アンケートは保育者養成校のカリキュラムを検討する上での調査研究です。個人情報の特定、公表は一斉行いません。ご同意の上ご協力宜しくお願いいたします。

1. 幼稚園・保育所時代に行った音楽活動で経験の有無を教えてください。

	質問	ある ←————→ ない			
		④	③	②	①
1	いろいろな歌を歌った	④	③	②	①
2	リズムを含む遊びを行った	④	③	②	①
3	担当の保育者がピアノなどで歌の伴奏してくれた	④	③	②	①
4	指遊び手遊びをした	④	③	②	①
5	お遊戯やリトミックなど、身体表現を行った	④	③	②	①
6	わらべうたを歌いながら遊んだ	④	③	②	①
7	ミュージックベル、ハンドベルなどで演奏したことがある	④	③	②	①
8	行事のとき歌を歌ったことがある	④	③	②	①
9	行事のとき、楽器で合奏したことがある	④	③	②	①
10	劇などを発表したことがある	④	③	②	①
11	行事等で鼓笛隊で発表したことがある	④	③	②	①

2. 子どもの頃に歌った曲で覚えているものを書いてください(複数記述)

3. 幼稚園・保育所時代に次の項目の経験の有無を教えてください。

	質問	ある ←————→ なし			
		④	③	②	①
1	音楽のついた話や劇にワクワクしましたか	④	③	②	①
2	音楽に合わせて体を動かすのは好きでしたか	④	③	②	①
3	音楽をイメージした身体活動をおこなったことがありますか	④	③	②	①
4	友達などと音楽づくりをするとき、充実感がありましたか	④	③	②	①
5	音楽を絵や造形で表す活動をおこなったことがありますか	④	③	②	①
6	「わらべうた」や「絵描き歌」で遊んだことはありますか	④	③	②	①
7	テレビCMの音楽やセリフをまねたことがありますか	④	③	②	①
8	周囲の音に耳を傾けて音をイメージしたことがありますか	④	③	②	①

4. 幼児期から現在に至るまでに個人的に習った楽器はありますか。 ある なし

「ある」と回答された方は楽器と習った時期を教えてください

5. 幼児期から現在に至るまで部活動、クラブで習った楽器はありますか。 ある なし

「ある」と回答された方は楽器と習った時期を教えてください

ありがとうございました